

12 家族と運動・スポーツ

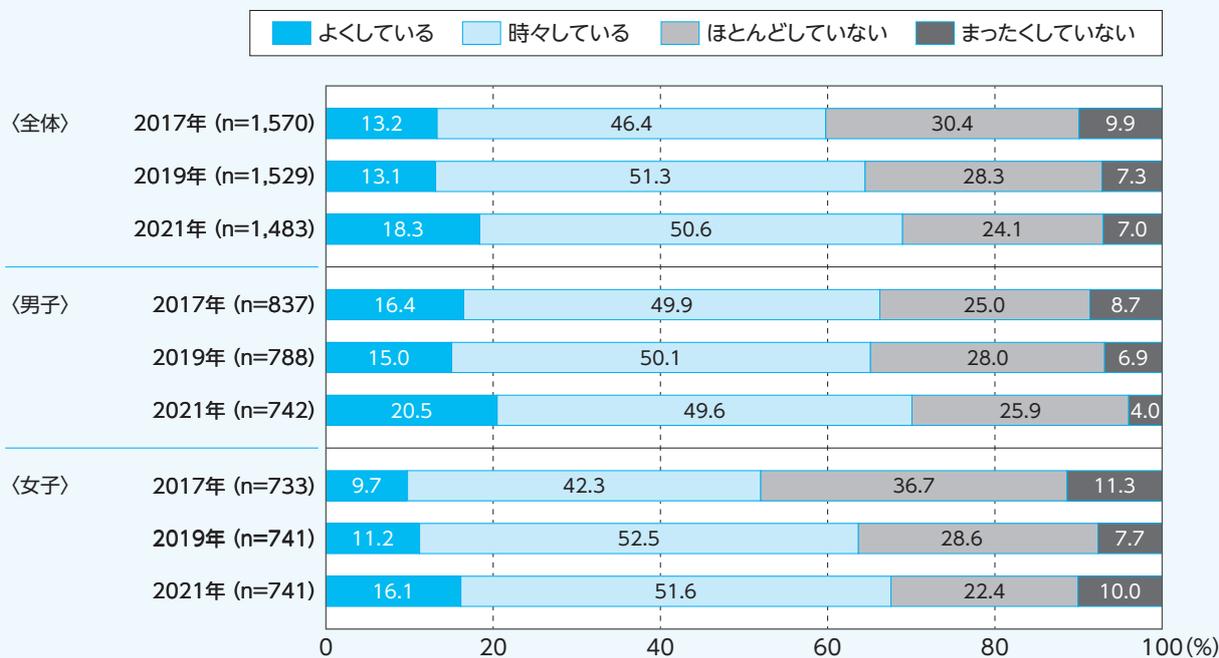
12-1 家族との運動・スポーツ、運動あそび実施状況

4～11歳の回答者の保護者に対し「調査をお願いしたお子様は、あなたご自身を含めご家族と普段、運動・スポーツ・運動あそびをしていますか」とたずね、「よくしている」「時々している」「ほとんどしていない」「まったくしていない」の4段階で回答を求めた。

図12-1に家族との運動・スポーツ、運動あそび実施状況の年次推移を全体・子どもの性別に示した。2021年をみると、全体では「よくしている」18.3%、「時々している」50.6%、「ほとんどしていない」24.1%、「まったくしていない」7.0%であり、4～11歳の子どもの7割程度が、家族で運動・スポーツ、運動あそびを行っていた。年次推移をみると、2017年から2019年にかけては

「よくしている」は2017年13.2%、2019年13.1%と横ばいであったが、2019年から2021年にかけては「よくしている」は5.2ポイントの増加がみられた。また「よくしている」と「時々している」を合わせた割合でみると、2017年は59.6%、2019年は64.4%、2021年では68.9%と、家族で運動・スポーツ、運動あそびを行っている子どもは増加傾向にある。

子どもの性別にみると、2021年では男子が「よくしている」20.5%、「時々している」49.6%であり、女子は「よくしている」16.1%、「時々している」51.6%であった。「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、男子70.1%、女子67.7%であり、男子が女子を2.4ポイン



【図12-1】 家族との運動・スポーツ、運動あそび実施状況の年次推移 (4～11歳:全体・子どもの性別)

注) 兄弟・姉妹は除く

資料: 笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2021

ト上回る。年次推移をみると「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は男子では2017年66.3%、2019年65.1%、2021年70.1%と、2017年から2019年にかけて減少したものの、2019年から2021年にかけては増加傾向を示している。女子では、2017年52.0%、2019年63.7%、2021年67.7%と、2017年から増加の傾向にある。

図12-2に示す子どもの就学状況別にみると「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、2021年では未就学児82.1%、小学1・2年76.3%、小学3・4年67.2%、小学5・6年では56.3%であり、学年が上がるにつれて家族との運動・スポーツ、運動あそびの実施率は低下する。

年次推移をみると「よくしている」と「時々している」を合わせた割合はいずれの就学状況においても増加傾向を示している。「よくしている」に着目すると、2017年から2019年にかけては未就学児から小学3・4年では横ばい、小学5・6年ではやや減少傾向にあったが、2019年から2021年にかけてはいずれの就学状況においても増加している。特に、未就学児で8.5ポイント、小学1・2年で7.0ポイント増と幼児や小学校低学年の子どもたちにおいて家族との運動・スポーツ、運動あそびの機会が増えている。新型コロナウイルス感染拡大に伴い家族で過ごす時間が増加したことも要因のひとつと考えられる。

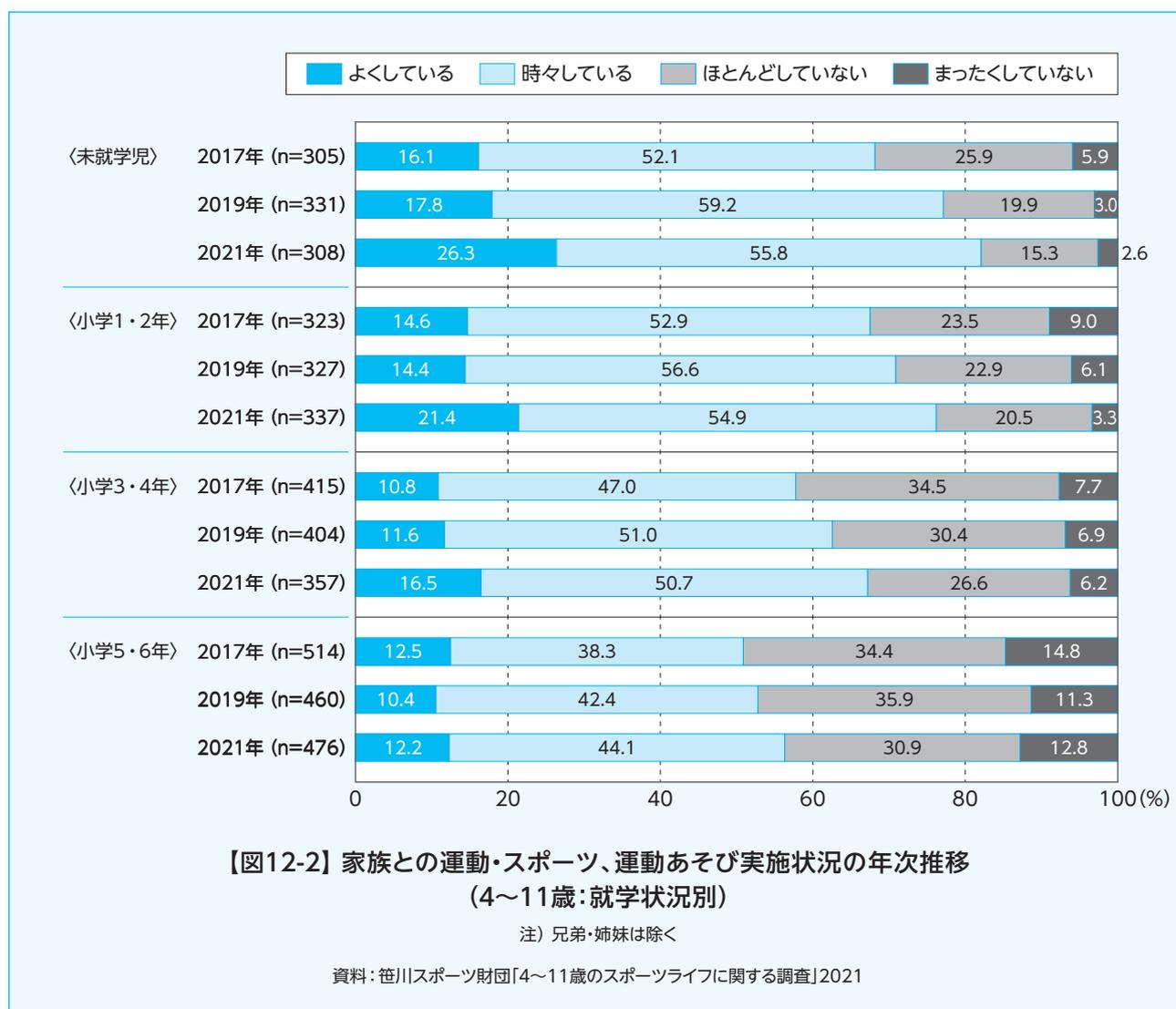
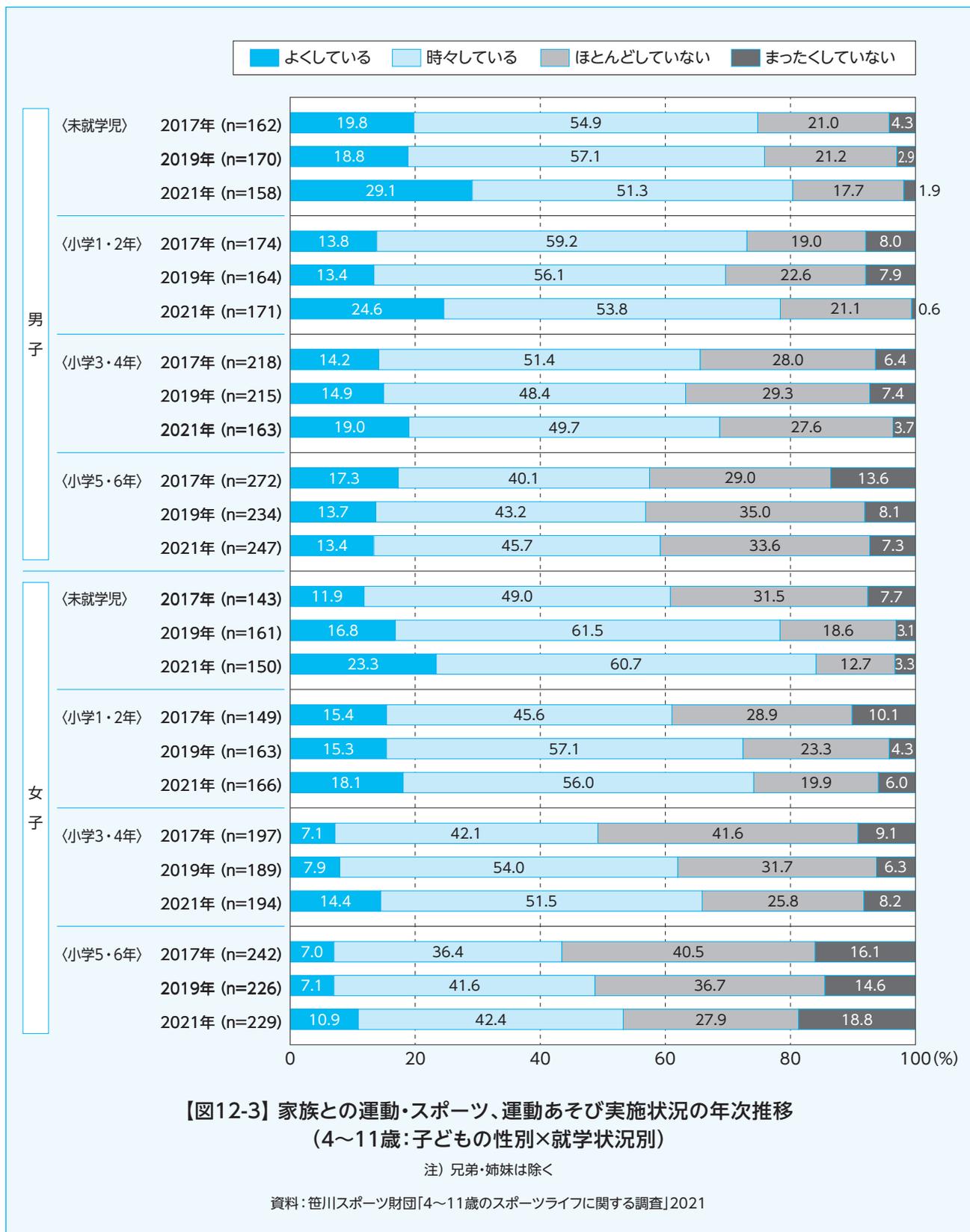


図12-3に子どもの性別・就学状況別にみた家族との運動・スポーツ、運動あそび実施状況の年次推移を示した。2021年の「よくしている」をみると、男子では未就学児29.1%、小学1・2年24.6%、小学3・4年19.0%、

小学5・6年13.4%であり、女子では未就学児23.3%、小学1・2年18.1%、小学3・4年14.4%、小学5・6年10.9%であった。「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、男子では未就学児80.4%、小学1・2年



【図12-3】 家族との運動・スポーツ、運動あそび実施状況の年次推移 (4～11歳:子どもの性別×就学状況別)

注) 兄弟・姉妹は除く

資料: 笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2021

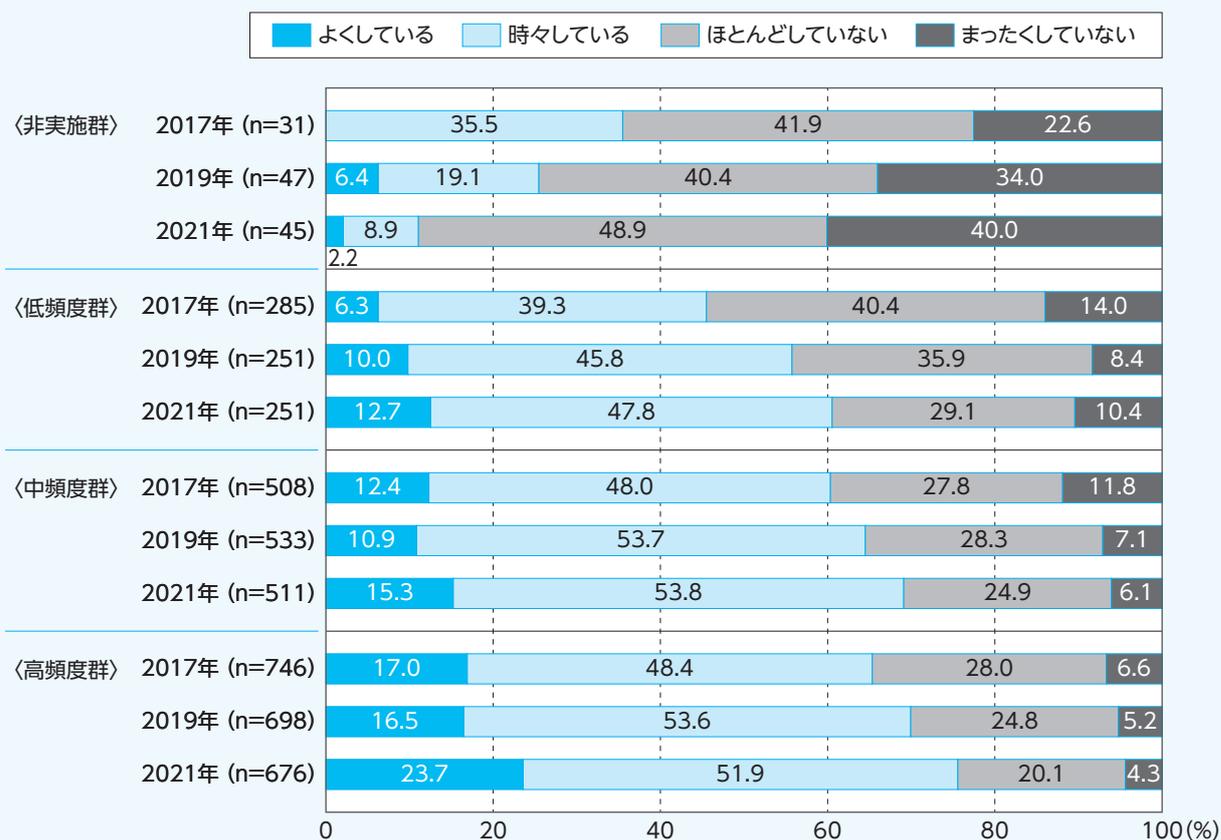
78.4%、小学3・4年68.7%、小学5・6年59.1%であった。女子では未就学児84.0%、小学1・2年74.1%、小学3・4年65.9%、小学5・6年53.3%であり、男女ともに学年が上がるにつれて家族との運動・スポーツ、運動あそびの実施率は低下する。実施率は未就学児では男子よりも女子のほうが高いが、小学1・2年で逆転する。小学5・6年では男女差が最も大きくなり、男子が女子を5.8ポイント上回っていた。

2019年と比較すると「よくしている」の割合は男子の未就学児と小学1・2年において10ポイント以上の増加がみられた。女子では未就学児と小学3・4年で6.5ポイント増加した。

図12-4に子どもの運動・スポーツ実施頻度群別に家

族との運動・スポーツ、運動あそび実施状況の年次推移を示した。2021年では「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、非実施群11.1%、低頻度群60.5%、中頻度群69.1%、高頻度群75.6%であり、運動・スポーツの実施頻度が高い子どもほど、家族と運動・スポーツ、運動あそびを行っている割合も高い。

2019年と比較すると、「よくしている」は高頻度群では7.2ポイント増加したが、非実施群では4.2ポイントの減少がみられた。また「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、低頻度群から高頻度群では5ポイント程度の増加がみられたが、非実施群では14.4ポイント減少し、運動・スポーツを全くしない子どもの家庭における実施率の低下が顕著であった。



【図12-4】 家族との運動・スポーツ、運動あそび実施状況の年次推移(4~11歳:頻度群別)

注) 兄弟・姉妹は除く

資料: 笹川スポーツ財団「4~11歳のスポーツライフに関する調査」2021

12-2 家族とのスポーツ観戦状況

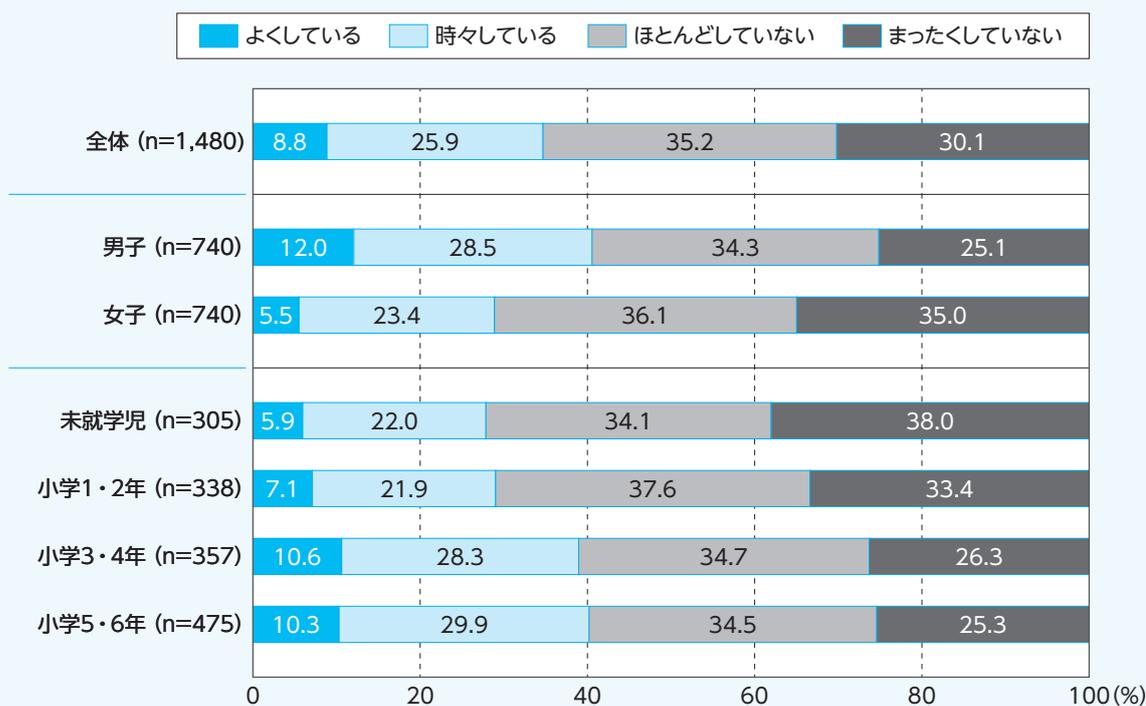
4～11歳の回答者の保護者に対し「調査をお願いしたお子様は、あなたご自身を含めご家族と普段、スポーツ観戦（テレビなどを含む）をしていますか」とたずね、「よくしている」「時々している」「ほとんどしていない」「まったくしていない」の4段階で回答を求めた。

図12-5に家族とのスポーツ観戦状況を全体・子どもの性別・就学状況別に示した。全体をみると「よくしている」8.8%、「時々している」25.9%、「ほとんどしていない」35.2%、「まったくしていない」30.1%であり、4～11歳の子どもの3割程度が家族でスポーツ観戦を行っていた。

子どもの性別にみると、男子では「よくしている」12.0%、

「時々している」28.5%、「ほとんどしていない」34.3%、「まったくしていない」25.1%であり、女子では「よくしている」5.5%、「時々している」23.4%、「ほとんどしていない」36.1%、「まったくしていない」35.0%であった。「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、男子40.5%、女子28.9%であり、男子が女子を10ポイント以上上回っている。

子どもの就学状況別にみると「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、未就学児27.9%、小学1・2年29.0%、小学3・4年38.9%、小学5・6年では40.2%であり、学年が上がるにつれて家族とスポーツを観戦している割合は高くなる。



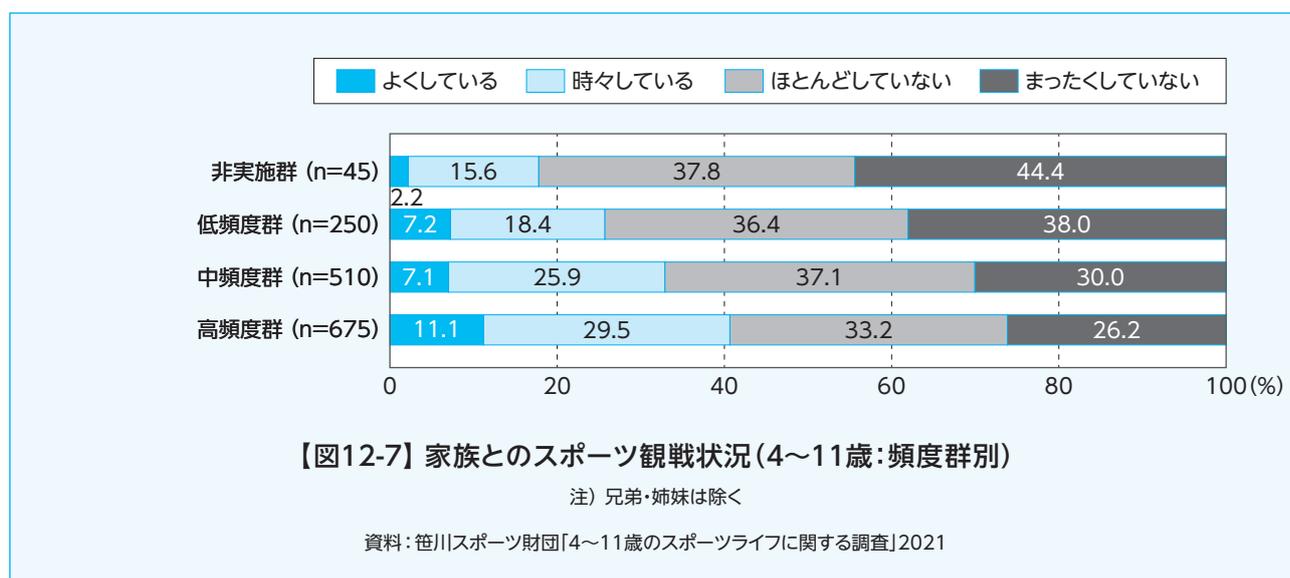
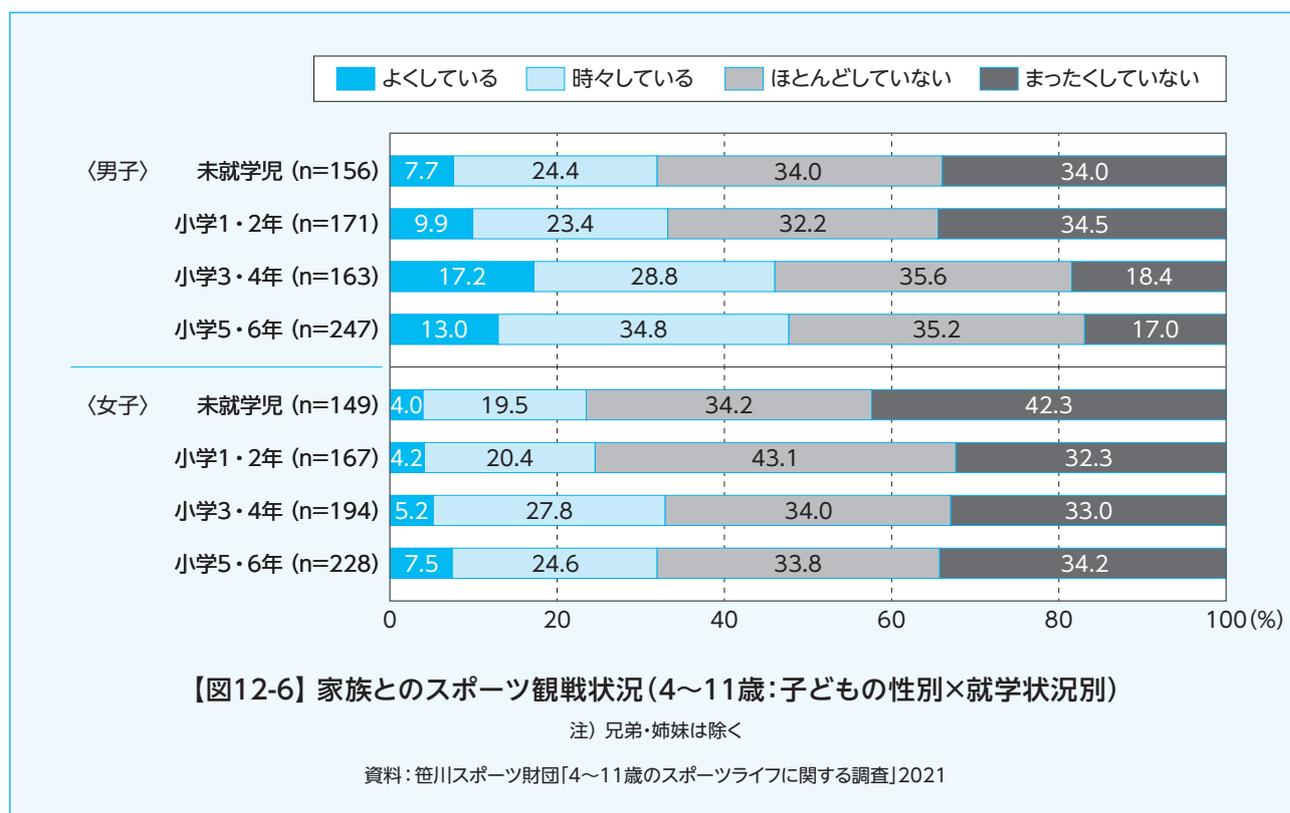
【図12-5】 家族とのスポーツ観戦状況（4～11歳：全体・子どもの性別・就学状況別）

注）兄弟・姉妹は除く

資料：笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2021

図12-6に子どもの性別・就学状況別にみた家族とのスポーツ観戦状況を示した。「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、男子では未就学児32.1%、小学1・2年33.3%、小学3・4年46.0%、小学5・6年47.8%であった。女子では未就学児23.5%、小学1・2年24.6%、小学3・4年33.0%、小学5・6年32.1%であり、男女とも小学校中学年から家族とスポーツを観戦している割合が高くなる。

図12-7に示す子どもの運動・スポーツ実施頻度群別にみると「よくしている」は非実施群2.2%、低頻度群7.2%、中頻度群7.1%、高頻度群11.1%であり、非実施群と高頻度群で8.9ポイントの差がみられた。「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、非実施群17.8%、低頻度群25.6%、中頻度群33.0%、高頻度群40.6%であり、運動・スポーツをよく行っている子どもほど、家族とスポーツ観戦をしている割合も高い。



12-3 家族との運動やスポーツについての会話

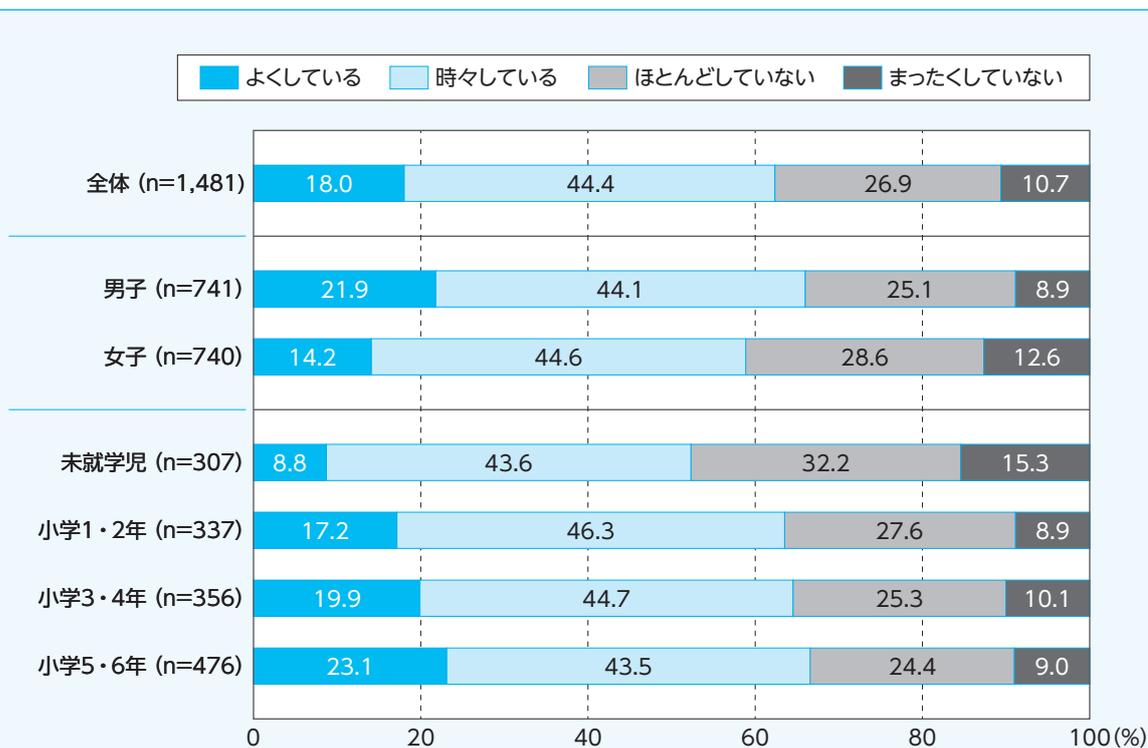
4～11歳の回答者の保護者に対し「調査をお願いしたお子様は、あなたご自身を含めご家族と普段、運動やスポーツについての話をしていますか」とたずね、「よくしている」「時々している」「ほとんどしていない」「まったくしていない」の4段階で回答を求めた。

図12-8に家族との運動やスポーツについての会話の有無を全体・子どもの性別・就学状況別に示した。全体をみると「よくしている」18.0%、「時々している」44.4%、「ほとんどしていない」26.9%、「まったくしていない」10.7%であり、「よくしている」「時々している」を合わせると、4～11歳の子どもの6割程度が家族と運動・スポーツについての会話をしていた。

子どもの性別にみると男子では「よくしている」21.9%、

「時々している」44.1%、「ほとんどしていない」25.1%、「まったくしていない」8.9%であり、女子では「よくしている」14.2%、「時々している」44.6%、「ほとんどしていない」28.6%、「まったくしていない」12.6%であった。「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、男子66.0%、女子58.8%で、男子が女子を7.2ポイント上回っていた。

子どもの就学状況別にみると「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、未就学児52.4%、小学1・2年63.5%、小学3・4年64.6%、小学5・6年では66.6%であり、学年が上がるにつれて家族と運動・スポーツについての会話をしている割合は高くなる。



【図12-8】 家族との運動やスポーツについての会話(4～11歳:全体・子どもの性別・就学状況別)

注) 兄弟・姉妹は除く

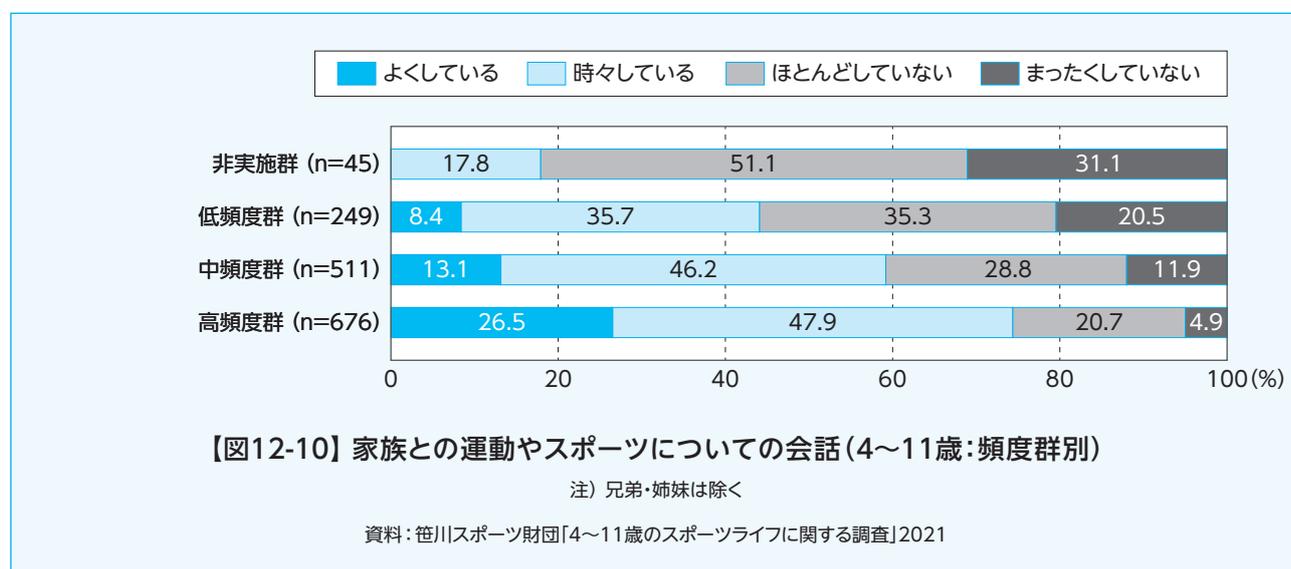
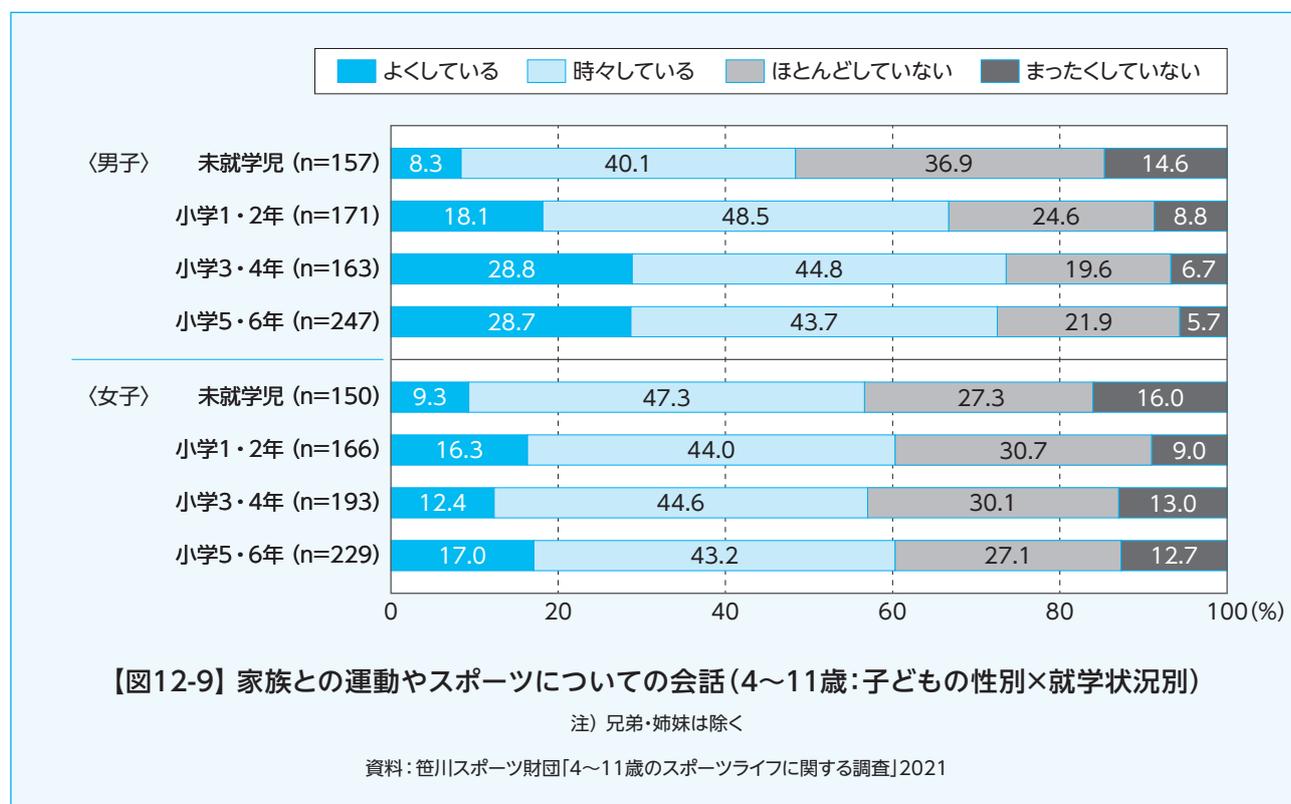
資料: 笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2021

図12-9に子どもの性別・就学状況別にみた家族との運動・スポーツについての会話の有無を示した。「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、男子では未就学児48.4%、小学1・2年66.6%、小学3・4年73.6%、小学5・6年72.4%であった。幼児から小学校中学年までは、学年進行にともなって家族と運動・スポーツの会話をする割合は高くなり、小学校中学年以上では7割を占める。

女子では未就学児56.6%、小学1・2年60.3%、小学3・4年57.0%、小学5・6年60.2%であり、就学状況

による違いはあまりみられなかった。男女差をみると「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、未就学児では女子が男子を上回っているが、小学1・2年で逆転し、小学3・4年では男女差が拡大する。

図12-10に示す子どもの運動・スポーツ実施頻度群別にみると「よくしている」と「時々している」を合わせた割合は、非実施群17.8%、低頻度群44.1%、中頻度群59.3%、高頻度群74.4%であり、運動・スポーツをよく行っている子どもほど、家族と運動・スポーツについての会話をしている割合も高くなる。



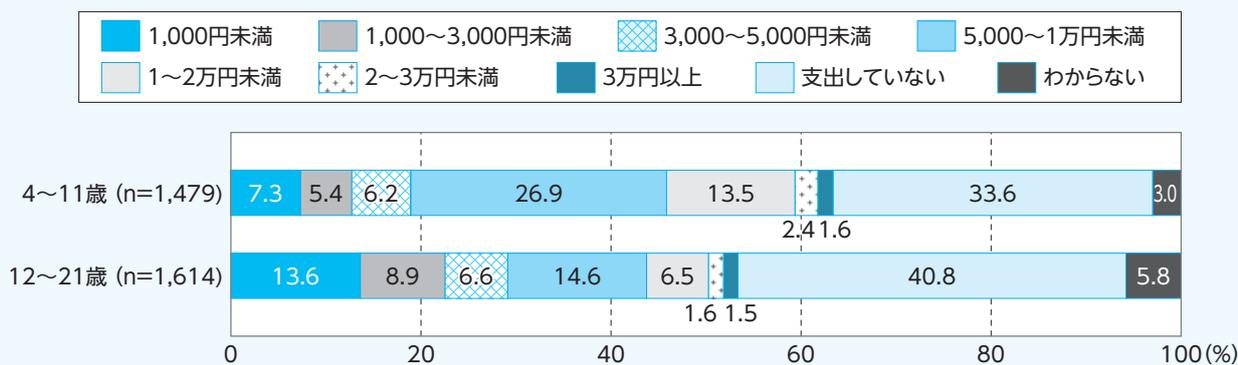
12-4 子どものスポーツ活動にかかる費用

4～11歳と12～21歳の回答者の保護者に対し、子どものスポーツの習いごとや学校の運動部活動などにかかる1ヵ月平均の費用（月謝・用具代・交通費などを含む）をたずねた。

図12-11に子どものスポーツ活動にかかる1ヵ月平均の支出額を示した。4～11歳では「支出していない」を

除いて「5,000～1万円未満」が26.9%と最も多く、次いで「1～2万円未満」13.5%、「1,000円未満」7.3%であった。

12～21歳では「支出していない」を除いて「5,000～1万円未満」が14.6%と最も多く、次いで「1,000円未満」13.6%、「1,000～3,000円未満」8.9%であった。



【図12-11】1ヵ月あたりのスポーツ活動の費用（4～11歳・12～21歳）

注）スポーツの習いごとや学校の運動部などにかかる1ヵ月平均の費用（月謝・用具代・交通費など含む）

資料：笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2021、「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2021

COMMENTS

資料：笹川スポーツ財団「4～11歳のスポーツライフに関する調査」2021、「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2021

- 少年野球やバスケットを習いたい、習わせてあげたいと思っても、説明や体験に行くと“試合のたびに親の手伝いが必要”“送り迎えが必要”“下の子は連れてきてはダメ”など決まりがあり、仕事もしているので子どもにあきらめてもらったことがあります。共働き家庭は厳しい現実だと思いました。（6歳男子の母親）
- スポーツをするにあたり、費用面が親の大きな負担となります。また、自らがラグビーで左鎖骨骨折で入院した経験からケガをしないか不安です。スポーツは人材育成や体力向上の面から必要と考えていますが、目標がないと「やる気」がなくなる気がします。大人になってからもスポーツをする機会を与えて頂ければ幸いです。（20歳男子の父親）
- スポーツにレベルアップを求めようとすると、親の送迎や金銭の問題が発生してしまう。共働きなので送迎が難しく、人をお願いするとやはりお礼をしなければと思ってしまう。子どもがやりたいと思う時につれていけないことが多かった。（21歳男子の母親）
- 仕事があつたり車を所有していなかったりするため、試合等の送迎を他の保護者にほとんどお願いしなければならず、またほぼ毎週末（時に土・日とも）試合で本人や保護者の負担が大きいと感ずますが、指導の先生はとてもよくしてくださるので感謝しています。（13歳女子の母親）

図12-12に子どものスポーツ活動にかかる1ヵ月平均の支出額について4~11歳の運動・スポーツ実施頻度群別にみると「支出していない」は低頻度群45.2%、中頻度群31.3%、高頻度群27.8%であり、運動・スポーツの実施頻度が低い子どもほどスポーツ活動にかかる費用は少なかった。

図12-13に示す12~21歳の運動・スポーツ実施レベル別にみると「支出していない」の割合は「レベル1」62.4%、「レベル2」39.1%、「レベル3」32.8%、「レベル4」6.7%であり、低水準の運動・スポーツ実施者ほどスポーツ活動にかかる費用は少なかった。

